

6/29/1 (Item 1 from file: 351)
DIALOG(R)File 351:DERWENT WPI
(c)1996 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

003754297 WPI Acc No: 83-750506/35
XRAM Acc No: C83-083032
XRPX Acc No: N83-153280

Deodorant compsn. comprising chlorophyll and/or cyclodextrin and enzyme
for decomposing malodour and/or tannin

Patent Assignee: (SHIM-) SHIMADA KANKYO KAGA; (KAYO-) KAYO SANGYO KK

Patent Family:

CC Number	Kind	Date	Week
JP 58124452	A	830725	8335 (Basic)

Priority Data (CC No Date): JP 828410 (820121)

Abstract (Basic): Deodorant compsn. consists of chlorophyll and/or
cyclodextrin and an enzyme for decomposing malodour and/or tannin.

Chlorophyll includes chlorophyll, its alkali metal salt e.g.
sodium, potassium and lithium, alkaline earth metal salt etc.

Cyclodextrin includes oligomer contg. 6-10 beta-glucopyranose gps.
bonded via alpha-1,4-glucoside bonding. Tannin includes gall, gallnut,
chestnut, condensed tannin, and polyvalent phenolic acid. Enzyme for
decomposing malodour decomposes ammonia and sulphides.

The deodorant compsn. pref. comprises 100-500 ppm chlorophyll,
0.1-1% cyclodextrin, 100-300 ppm enzyme and 0.1-1% tannin. The
deodorant compsn. is usually used by dissolving in water, methanol,
ethanol, etc.

Deodorisation is carried out rapidly and its effect lasts for a
long time. (2pp Dwg.No.0/0)

12 公開特許公報 (A)

昭58-124452

Int. Cl.³
A 61 L 9/01

識別記号

庁内整理番号
6917-4C

43 公開 昭和58年(1983)7月25日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

54 脱臭剤組成物

21 特 願 昭57-8410

22 出 願 昭57(1982): 721日

23 発 明 者 高頭正元

大阪府泉南郡岬町深日2325-9

24 発 明 者 佐々木新光

浦和市大字辻1437の6

21 出 願 人 株式会社嶋田環境科学研究所
習志野市屋敷2-11-1622 出 願 人 華洋産業株式会社
愛知県知多郡東浦町大字森岡字
岡田24

24 代 理 人 弁理士 宇佐見忠男

明 細 書

1. 発明の名称

脱臭剤組成物

2. 特許請求の範囲

炭酸塩または／および環状デキストリンと、
悪臭成分分解酵素または／およびタンニンとを
主体とする脱臭剤組成物

3. 発明の詳細な説明

本発明は瞬時にして脱臭が可能でかつ持続的
効果を有する脱臭剤組成物に関するものである。

炭酸塩や環状デキストリンが脱臭剤として用
いられていることは、例えば特開昭50-
69100号、特開昭50-31052号、特
開昭51-148052号等に開示されている。
これらは瞬時にして脱臭を行う速効性の脱臭剤
であるが、脱臭効果の持続性がみられず、特に
悪臭が問題となり、かつその処理が困難である
場所から排出される生ごみ等に出ているには問題
があった。

本発明は上記従来の欠点を改良して家庭から
排出される生ごみ等からの悪臭でも瞬時にして
除去出来、かつ持続的脱臭効果を有する脱臭剤
組成物を提供することを目的とする。

上記目的に対して本発明者等は鋭意研究を重ねた結果、脱臭剤として公知の上記炭酸塩または／および環状デキストリンと、悪臭成分分解酵素または／およびタンニンとを組み合わせることによって驚異的な脱臭効果が得られることを見出し本発明を完成した。

本発明を以下に詳細に説明する。

本発明に言う炭酸塩とはクロロフィル、およびクロロフィルのカリウム、ナトリウム、リチウム等のアルカリ金属、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属、鉄、ニッケル、コバルト等の遷移金属、銅、銀等の副族金属等の金属塩を含むものである。

本発明に言う環状デキストリンとは6~10のβ-グルコピラノース環がα-(1,4)-グルコシド結合により環状に結合したオリゴマー

本発明に言うタンニンとは植物界に広く存在し、五倍子、没食子、チェストナット、ミラボラン、パロニア等の加水分解型タンニン、マングローブ、ケブラチオ、カッチ等の縮合型タンニン、ワットル、ガンビア等の両性型タンニン、あるいは上記加水分解型タンニンや両性型タンニンの加水分解から生じた多価フェノール酸、例えばタンニン酸、没食子酸等も本発明に言うタンニンに含まれる。

本発明に言う器具成分分解酵素とはアンモニア、硫化物等の器具塩を分解する酵素のことを言ひ、このような酵素は土壌バクテリア、または糞かび類、腐菌等の土壌菌等から生産される。

本発明の製菓用組成物において上記糖酸は100～500ppm程度、調伏デキストリンは0.1～1%程度、懸濁成分分解率は100～300ppm程度、タンニンは0.1～1%程度含まれるのが適当である。糖酸と調伏デキストリン

ンはどちらか一方、あるいは両方とも含まれ、
 酵素成分分解酵素とタンニンもどちらか一方ま
 たは両方とも含まれてよい。かくして凝結剤と
 環状デキストリンは速効性の脱臭効果を発揮し、
 酵素成分分解酵素は酵素成分分解作用によって、
 タンニンは酵素成分緩和作用によって持続性の
 脱臭効果を発揮する。上記配合物は水またはメ
 タノール、エタノール、イソプロパノール、ア
 セトン、ジオキサン等の水溶性有機溶剤、ある
 いはそれらの混合溶剤等に溶解して使用に供さ
 れるのが通常である。

かくして脱臭剤組成物が得られるが、本発明の脱臭剤には例えばピレトリン製剤のような殺虫剤、ジヒドロキシジフェニルメタン、トリブチルチンフタレート等のような防蟻剤、香料等を添加してもよい。家庭用に望ましいのは本発明の脱臭剤組成物を水、および／またはアルコール等の溶剤に溶解してスプレータイプにすることである。スプレータイプにする場合には一般的に本発明の脱臭剤組成物を水：エタノール

の70:30~30:70重量比配合率別に記載した各成分濃度範囲で好適する。上記母液にはポリアクリル酸ソーダ、カルボキシメチルセルロース、アルギン酸ソーダ等の水溶性調剤を添加すると膜粘性を有するようになり適ましいことである。これら調剤は通常上記母液に0.01~0.1重量%添加される。

例 1.

上記の成分を下記の量でエタノールに溶解
させる。

メチロクロソフィン	300	円
樹状デキストリン	95	円
1-2 (糖組成分析用)	200	円
ジヒドロキシフェニルメタンナオシアニド (25% メタノール溶液)	25	円
カルボキシメチルセルロース	10	円

かくして得られた脱臭剤組成物を母液を水で更に10倍に希釈して腐敗した家庭生ごみにスプレーすれば悪臭は同時に消滅し、略々5日間消臭効果が続く。

圖 2

実験例1の酵素に代えてジヒドロキシフェニルスルホンモノスルホン酸ナトリウムのホルマリン配合物¹⁾7%を添加して得られた臭気抑制剤を腐敗した家庭生ごみにスプレーすれば臭気は同時にして消滅し、略4日間消臭効果が持続する。

突厥的 3

実験例2の合成タンニンに代えてミモザタンニンの0.5%を添加しても懸濁は固形にして用
可し、数4日間放置も変質が特観する。

比较例 1.

実用例 1. K において西尾説分分解法を百いた
ものはスプレー使用後効果は略 3 時間しか持続
しない。

比例例 2

実験例2において合成タンニンを省いたものはスプレー使用効果が略2時間しか持続しない。